

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居の方が「～へ行きたい」「～がしたい」という言葉を受けとめ、出来ること願い事を叶えていくようにし、個別ケアに力を入れています。	理念「(1)ゆったりと、自由な暮らし(2)穏やかで、安らぎのある暮らし(3)自分でやれる喜びと達成感のある暮らし(4)どんな時でも尊厳を保たれる暮らし(5)仲間と一緒に暮らす」に添った支援をしているかどうか勉強会で確認し、実践につなげています。	この理念を更に職員、利用者、家族に浸透する方法を工夫し、理念の実践につながることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加盟し、近隣の町会の行事に参加し、足り事業所の行事への参加を呼び掛けています。	町会の防災訓練を兼ねた夏祭りに参加し、事業所で行う、夏祭り、餅つき、等のお知らせをポストに入れたり、ポスターを貼り参加を呼びかけて、利用者外部の方と共に楽しんでいる様子が写真で見取れます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小金原高齢者支援連絡会に所属し、会への参加を通して認知症ケアの知識を深めたり、相談員と民生委員との交流会や施設見学に取り組み、地域の方々に認知症ケアの在り方を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族からのご要望を聞き改善に取り組んでいます。	運営推進会議は町会の方の参加で実施イベントの情報交換や意見交換を行って運営に活かしています。	運営推進会議は外部の方に事業所の取り組みを知らせ、また意見を聞くことで気が付かなかったことに気づく良い機会なので、多くの方の参加でより内容のある運営推進会議とし、その結果を議事録として残すよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市への報告を通しケアの内容や実情を話すことが出来ていると思います。また、GH協議会と市との関係性が深まり、「ケアプランについて」と「認知症ケアについて」研修を通して情報交換をより深めることが出来ています。	介護保険課、高齢者支援課との連絡は密にとっています、グループホーム協議会に市の職員の出席を要請し、出席のあった時は積極的に話しかけ関係づくりに努力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所から玄関に施錠せず開放的にすることに取り組む続け、「身体拘束はしない」という方針を貫いています。	理念である(1)のゆったりと、自由な暮らしを實踐して施錠せず、センサーと地域ぐるみの見守りで対応しています。利用者は自由にベランダを一周して共有のベランダでくつろいだり、庭にでたりして楽しんでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の乱れは介護の乱れということで、言葉遣いから注意し、虐待しないケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加と、市民後見人の養成講座の実習生を受け入れなどを通し知識を高めています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居までの時間をしっかり取り、ホームの様子を伝え、ご本人のご様子を伺い情報交換をしたうえで、見学や体験を通して、ホームへの入居とご利用方法などご理解、ご納得して頂くようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・行事等で家族・地域住民と意見交換をし、ミーティングにおいて職員に伝え業務変更につなげている。	一日のケアの流れを個別ファイルに記入し時系列で介護内容を記録して利用者の日々の様子が分るようになっていきます。その記録を家族に見せ意見を聞いたり、家族が行事等に参加した時に家族の意見を聞き支援につなげています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや日々言葉を交わし小ミーティングなども臨時に行えるようにしています。	日頃からスタッフ同士がコミュニケーションを取りやすい環境作りを行い、個々の会話の中で出た意見を毎日のミーティングで話し合い支援に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	更なるスキルアップのため目標となる資格取得や役職に就くなど、職員に合わせて話をしています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアについて、ロールプレイや、当事者の話を聞いたり、KJ法による情報交換をし、いろいろな形の研修を通し、認知症の方をより深く理解していけるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市GH協議会での研修会や交流会、見学会に積極的に参加し、スタッフ同士の情報交換が活発になっています。又、ケアマネジャーネットワークや小金原の高齢者支援連絡会にも参加し他事業種の情報交換等に役立てています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めの不安は多く、管理者が主となり1対1で話をしたり、家族を含め対話することに時間をかけるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当初は、ご家族の面会も多くして頂き、以前の生活の状況をお聞きしながら一緒にケアの方向性を相談し、ご本人とご家族の不安を取り除けるように援助しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人がなぜここに来られたのか、ここで何をするのか、何がしたいのか、困っていることなどからホームでの生活を組み立てています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事、したい事、お手伝い出来る事は尊重し、ここが自分の家であるようになじみの家具・寝具・食器などを持ち込み生活の場を一緒に作っていきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊、行事などご家族と一緒に過ごして頂ける時間を作り、ご本人の様子からケアの内容を確認しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅へ訪問したり、ご友人の面会も自由にいただいています。またなじみの商店・美容室などにもご利用を続けています。	馴染みの人や場所を大事にして、自宅訪問、商店、理美容などの利用を続けると共に、施設も新たな生活の場(家)として認識できるよう地域の馴染みの人との人間関係創りや場所の馴染み創りに力を入れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの座席に気を配り、交流できるようにしています。利用者同士の会話も多くお互い協力しながら生活されています。男性が少ないので1, 2階で交流されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族に行事に参加して頂いたり、遊びに来て頂いたりしています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床時間・就寝時間など本人の生活習慣を大切に、食事や入浴に関してもご本人の意向を伺うようにしています。	センター方式に則り「私の出来ること、出来ない事」を把握して利用者の希望に沿った支援に取り組んでいます。入所時生活のリズムが大きくずれている場合は徐々に修正の支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や利用されていた介護サービス事業者からお話を聞き、生活歴に関する話題を含め、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアの担当者を決めその方の細かいところまで家族から情報を得ながら、把握に努め、ケース記録に日々の記録にもアセスメントを記入しながら把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が日々の申し送りの中で問題や課題をまとめ、ケース会議で課題評価を行い、今出来ることや、何かしたいことなどをまとめ、家族の意向や家族の協力を含め、それぞれのスタッフが日々のレクを充実させケアに反映させています。	生活援助計画を作成し、家族、職員全員にコピーを渡し、家族の意見要望を聞き、スタッフの意見を聞き、ケース会議で検討し、利用者本位の介護計画を家族の協力とスタッフで作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の記録をするだけでなく、実行しその結果を記録、それに対するアセスメントの記録にも努めている。他の職員は記録を読み、共有化をして次に繋げ、日々のケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームの方針として「～がしたい」「～へ行きたい」などの言葉を受け止め、旅行・歌舞伎鑑賞・音楽鑑賞・外食などに出掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館へ行ったり選挙の時は投票に行ったり、町会の防災訓練とおもちつき・盆踊りなどに参加し、顔なじみにつなげています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の状態を家族に伝え、受診をして頂いています。診療結果などもしっかり伝えて頂きホームでの生活の持続が出来る様になっています。訪問診療においては医師と看護師と介護職でミーティングをしてケアの確認をしています。	協力医、訪問診療医は決めているが固定化せず家族の選択に委ねています。診察後は医師、看護師とスタッフは利用者の健康状態を共有し、医師との信頼関係を築き適切な医療が受けられるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	注意深く観察することで細かい変化に気づき、看護職や訪問診療の医師に連絡し、早めの対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院までの経過を家族と病院に伝え入院までの支援をし、入院中の状態把握のため面会をしたりご家族との連絡を取りながら早期退院のための目標を置きながら、SWとの情報交換をし、早期退院をすすめています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から事業所としての基本方針を説明し、ご家族との要望を踏まえ、終の棲家として援助しています。訪問診療に移行して頂き24時間の対応ができるようにしています。	ターミナルケアについて事業所の基本方針を説明し家族の要望を踏まえ、家族と共に看取ります。終末期には24時間体制の訪問診療に移行し静かに見守ります。亡くなられた後は施設で納棺し、お葬式ではお別れ式を、利用者、スタッフ全員で行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署へ行き応急手当の講習を受け緊急時の対応に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	連絡網により災害時・停電時に対応しています。また、避難訓練を通し、安全確保を身に着けるようにしています。	災害対策マニュアルに沿った訓練を行い、避難経路や安全確保の研修を行っています。	災害時の協力体制を築くために消防署、消防団を軸に運営推進会議や町内会、行事に参加した近所の人達の協力を得て利用者の安全確保の体制を確立することに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの研修や勉強を通し、日々のけあを振り返るようにしています。話しかけは丁寧に、視線を合わせ、ゆっくりと、そして「ありがとう」の感謝の言葉を忘れないようにしています。	理念である(4)の「どんな時でも尊厳を保たれた暮らし」を実践できるように、ローリングプレイで声掛けの方法等練習して実践し「どこまで出来たか」反省を重ねながら努力しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の興味のある話題を提供し、外出につなげています。旅行・野球観戦・スカイツリー観光・映画・居酒屋など皆さんと計画し実行しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間からその方に合わせています。また自らの役割を見つけ生活に組み込んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えやクリーニングの支援をしています。行き付けの美容室へ送迎もしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご食事で手作りで味の好みや食材の変更、箸休めなど追加しながら食が進むように工夫しています。また、入居者が得意な調理などに参加し野菜を切ったり煮物をしたり揚げ物もしています。配膳・お茶汲み食器の片付けにも参加しています。メニュー表の書き込みと掲示をしています	対面キッチンになっているので料理作りしたい人は手伝い、後片付けをしたい人は後片付けをして料理作りから後片付けまで一緒に食事を楽しむ支援を行っています。また、介護度の高い人はその人の早さに合わせて食事介護している様子が窺えました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックをし、状態を把握し不足にならないように好きなものや、食べやすいものを理解し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアに努め、義歯の洗浄管理をしています。必要に応じ訪問歯科の導入をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の行かれる時間を把握し、しぐさや言動などから排泄のパターンを捉えています。機能訓練のためにも出来るだけトイレでの排泄に努めています。	本人の排泄パターン、様子でトイレに誘導し、トイレで排泄する喜びの継続のためにも仮に失禁している場合でも必ずトイレに行って排泄するように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、散歩、買い物などで体を動かし、水分摂取に努め、ヤクルトも取り入れ工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の希望を聞いたり、温浴治療のための対応をしたり、個浴にて、ゆっくり会話を楽しみながら入浴してる。	入浴は一人週2回行い、菖蒲湯、ゆず湯、バスクリンを入れたり、入浴時には音楽を流したりゆったりと入浴を楽しめる支援を行っています。入浴時間は出来る限り利用者の希望に沿って入浴できる工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温湿度の調節、布団の調節に気を配り、生活習慣も考慮しながら、足浴、湯たんぽ、電気毛布を活用しながら、それぞれの睡眠の確保に努め、体調により日中の休息や医師との相談で内服等の使用も考え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理、副作用など注意し、医師や薬局・薬剤師の説明指示を頂きながら、看護職と共にながら行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や洗濯・掃除の家事仕事など、役割を持ち生き生きと取り組まれています。時には、ビールなどを飲みながら夕食を楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会は散歩とお買い物で毎日あり、毎月の外食と遠足なども取り入れ閉じこもりにならないように支援している。又、玄関の施錠をしていないため、自由に出入りできるため必要に応じて外出、散歩に付き添い支援している。	外出は毎日行って外気浴を積極的にとるよう支援しています、系列のデイサービスの利用者と一緒に年に1回1泊2日で小旅行に行き、伊香保温泉等で楽しんでいる様子が写真で読み取れます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物で使えるようにお小遣いを預かり、外出時に使えるようにしている。お菓子や小物を買われたり、お仏壇のお供え物と花なども買われています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との電話の取次ぎをしています。年賀状のやり取りも支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内やリビングや廊下に行事の写真、絵手紙、貼り絵、手作りの作品を飾り付けをして季節感を感じられるように努めている。月1回の生け花教室を開催し季節の花に触れ、リビングに飾っています。庭に咲く桜や鳥の声(うぐいす)なども鑑賞しています。又、ホーム内は床暖が完備されています。	リビングや廊下に職員全員で作成した利用者が楽しんでいる写真をクリスマスツリーの形等に貼ってイベントごとに掲示している。またリビングには生け花を飾り季節感を演出し、全体として楽しさと明るさを感じられるゆとりのある雰囲気となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掘りごたつやソファや椅子などを配置され居場所作りの工夫がしやすく、少人数での交流も落ち着く空間になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室対応で全室床暖対応です。畳の部屋もあり、布団かベッドでの生活が選べます。居室は持ち込みの家具や写真などがおかれ個性のある雰囲気でも過ごせるようにしています。	個室には希望の物が持ち込まれ個性のある空間となっています。個室にはフローリングの中央に畳がある部屋もあり、落ち着いた生活が出来る工夫をしています。個室の入口には「笑顔が素敵で賞、字が上手で賞」等応援メッセージが見られました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は寝るところ、トイレや洗面所は共同で使用することで生活習慣を維持し、入居者同士が声を掛けながら助け合う場面が見られます。居室では、ベランダへ出て洗濯物を干したり、お花を見たり、草むしりをしたり、ご自分で布団の上げ下ろしをされる方もいます。		